図書館だより

大分県立芸術文化短期大学附属図書館

No.5（2005.10.1）

わたしたちの21世紀

附属図書館長　吉　良　伸　一

21世紀に突入して５年目になりました。1989年「ベルリンの壁」崩壊とともに東西対立がなくなって、平和な時代になるとみんな考えました。しかし、現実は民族や宗教による対立と、地球規模での経済競争の激化、そして強い者はより強く弱い者はより弱くという格差の拡大でした。世界的競争の中で企業もリストラを余儀なくされます。その結果、個人間でも就職や結婚などの競争の激化がはじまります。

パラサイト・シングルという言葉をはやらせた家族社会学者山田昌弘は『希望格差社会』（筑摩書房、2004年）という本を書いています。経済や社会の変化によりこれまで長く家族と企業によって守り育てられていた若者が厳しい競争の中に立たされ、希望を持てる層と持てない層に分解する。それなりに努力すれば報われる安定的なライフコースが崩れ、人生のあらゆる選択のリスクが拡大すると山田さんはいいます。同じく社会学者の宮本みち子さんの『若者が社会的弱者に転落する』（洋泉社、2002年）も参考になります。

自分はどんな生き方をするのか、どんな仕事をするのか、とりあえずフリーターなどと思っていたらえらい目に遭います。失敗してもいいから、いろんな経験を少しずつ積み重ねて、人生のスキルを意識的にアップすることだと思います。選択の眼を養うことも重要です。

ブレア政権のブレインで著名な理論社会学者アンソニー・ギデンスは『暴走する世界』（Runaway World、ダイヤモンド社、2001年）の中で、グローバル化・リスク・伝統・家族・民主主義をキーワードにグローバル化について論じました。90年代からの民主化や男女の実質的平等化などもまたグローバル化の一つと考えます。いい学校に入って、大きな企業に就職したら安泰という時代ではなくなっています。結婚して子どもをつくったら幸せというわけにもいかなくなっています。多様な生き方が出てきた反面で、選択に伴うリスクも拡大しています。失敗しても立ち上がるしたたかさと、それを支える人間関係をつくることが重要だと思います。

河地和子さんは『自信力が学生を変える』（平凡社新書）のなかで、バイトなど何をするにも目標を持つ、自分でネットワーク（人間関係）をつくる、授業中質問をすることなどを提案しています。わずかなきっかけで自分が変わるかもしれません。　（きら　しんいち／社会学）

目　次

図書館長からのメッセージ …… 1
「図書館利用に関するアンケート」から …… 2
図書館のアルバイトをして …… 5
この本、読んでみて！ …… 5
おすすめの一冊 …… 6
試聴室に行こう！　～試聴室おすすめのディスク～ …… 9
ツッチーコーナー …… 10
職員のつぶやき …… 11
本学教員執筆書籍等の紹介 …… 12
著作権法ミニ知識 …… 12

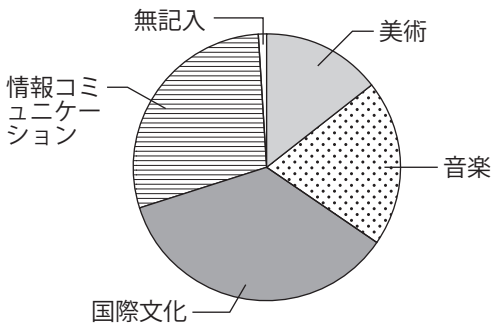
“図書館利用に関するアンケート”から

利用しやすい、親しみやすい図書館づくりをめざして、サービス向上を図るための基礎資料を得ることを目的とし、６月に学生を対象とした「図書館利用に関するアンケート」を実施しました。このたび、調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。

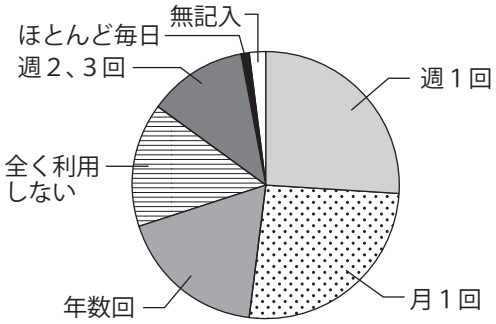
アンケートにご協力くださった学生の皆さん、本当にありがとうございました。

集計結果（回答総数：591名）

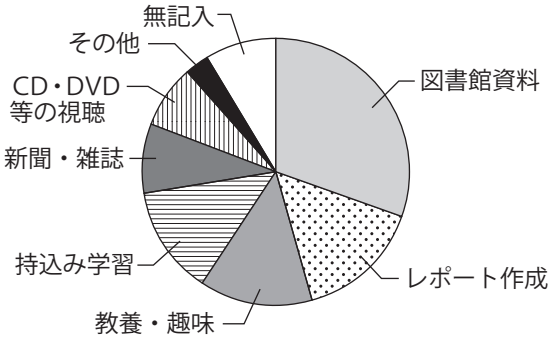
所　属　学　科



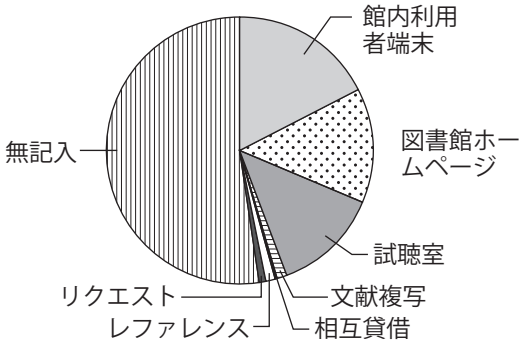
利　用　頻　度



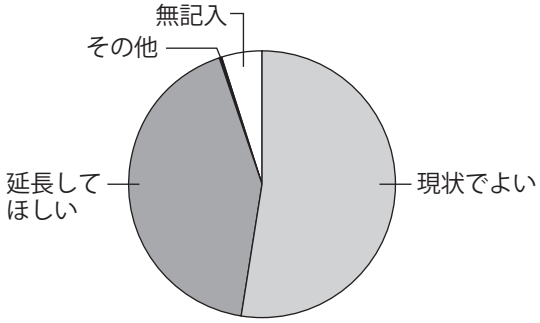
利用目的（複数回答）



サービス認知度（複数回答）



開　館　時　間



調査結果を見ると、図書館のサービス（ホームページでの検索や、希望の図書を購入できるリクエストなど）について、“知らない”との答えがとても多くありました。「図書館だより」の前号（第４号）や入学時のオリエンテーションで配布した「図書館利用ガイド」をもう一度開いてみてください。図書館の利用法、おすすめスポットなどを詳しく記載しています。

ここでは、アンケートの結果から、皆さんの質問・疑問にお応えします。

①　こんな本、読みたい。 ⟶ リクエストをしてください。

当図書館に所蔵していない図書などについては、リクエスト（購入希望）制度があります。所定の用紙に必要事項を記入して、カウンターでお申し込み下さい。リクエストの受付から貸出ができるようになるまで、約１ヵ月かかります。予算の都合などで購入できない場合もありますが、できるだけ要望にはお応えします。

②　読みたい本が図書館にあるか、ないか、分からない。 ⟶ ホームページで蔵書検索できます。

http://www.oita-pjc.ac.jp/library/にアクセスし、蔵書検索をクリックしてください。検索の画面で、本のタイトル・キーワードなどを入力し、「検索」を押してください。当館に所蔵があれば、配置場所などが表示されます。

また、図書館館内に利用者用端末（６台）を設置しています。蔵書検索のほかにインターネットの利用ができます。ゲームやメールには使用しないでください。

③　新聞・雑誌をゆっくりと読みたい。 ⟶ ブラウジングコーナー（１Ｆ）があります。

１階の第２閲覧室北側にブラウジング（拾い読み）コーナーを設けています。

同じコーナーに『現代用語の基礎知識』などを置いていますので、新聞を読んでいてわからない時事用語等があったら、その場で調べることもできます。

新聞は過去３年間分を保管していますし、雑誌のバックナンバーは、第１書庫（２Ｆ・入室可）などに別置しています。（現在、当館の購入雑誌：299誌　　購入新聞：７紙）

また、新聞記事の全文を、過去に遡ってキーワードなどで検索できる「新聞記事データベース」を設置しました。（１Ｆカウンター前、利用者端末コーナー）

④　開館時間を延長できないの？ ⟶ 現在、検討しています。

図書館の開館時間は、９時から17時までとなっており、５限の講義終了後に、利用できない現状です。開館時間の延長に向けて、様々な問題点を把握するため、定期試験、卒業研究の前に延長の試行を実施します。

⑤　ＤＶＤ、ビデオを見たい。 ⟶ 試聴室（２Ｆ）があります。開室　12：30〜16：30

第１試聴室に、鑑賞用の視聴覚機器を設置しています。見たいビデオ、聞きたいＣＤなどがありましたら、図書館カウンターまたは試聴室で所定の手続きをしてください。

視聴覚資料の所蔵数は、平成17年３月末現在で約13,000件です（ＣＤ：約7,600枚、ビデオ：約1,800本、ＤＶＤ：約600枚、ＬＤ：約1,000枚、ほか）。このうちの約5,000枚は、昨年、大分県文化振興財団から寄贈されたもので、第２試聴室に配架しています。

クラシック音楽だけではなく、ポピュラー音楽（例：ＳＭＡＰ、南こうせつ、ビートルズ）や映画、落語などもありますので、ぜひ足を運んでみてください。

ＡＶ資料は、試聴室のほか、１Ｆカウンター付近にもあります。

⑥　ＤＶＤ・ビデオは、なぜ借りられないの？ ⟶ 著作権法の制約があるからです。

図書館は、著作物の宝庫です。著作者には権利があり、その権利を保護するのが“著作権法”です。この法律によって、ＤＶＤ・ビデオは“映画の著作物”と考えられており、図書やＣＤとは異なる取扱いを義務づけられています。

ＤＶＤやビデオを貸し出すためには、レンタル用や図書館用の価格で購入しなくてはなりません。個人利用用の安い価格で購入したものは貸出ができないのです。学生用などに貸し出しが望ましいと思われるものについては、今後レンタル用価格で購入したいと思います。教育上必要なものは、先生方や学生の皆さんのリクエストを受け付けたいと思います。個人の楽しみの分はレンタルショップなどで借りてください。

⑦　カバンを持ち込みたい。 ⟶ 今後、検討していきます。

カバンの持ち込みなどについては、大学ですから、資料などを自由に持ち込めるのが望ましいと思いますが、残念ながら紛失の問題があります。この夏に書庫を含めて蔵書点検を行いましたが、図書・ＣＤなどに紛失がややありました。今後は県立図書館などにあるブック・ディテクション・システムなどを導入し、カバンの持ち込みができるように検討していきたいと考えています。

今後とも、利用しやすい図書館をめざしていきます。ご意見をお寄せください。

図書館のアルバイトをして

美術科１年　**山　下　祐貴子**

10日間という短い期間でしたが、図書館のアルバイトという貴重な経験をさせていただきました。

蔵書整理ということで、一冊一冊手にとって作業したり、不明本を探すことは、大変でしたが、今まで知らなかった本を知ること、本を発見することは楽しかったです。

また、一冊一冊手に取ることで、今まで見ることのなかった分野の本に興味をもつきっかけになりました。

今回の経験を通して、図書館の仕事は体力が必要で大変だと思う反面、やりがいがあるなと思いました。

また、自分の知らなかった世界があり、視野を広げるきっかけがたくさんある場所だと思いました。

これからは、私自身の視野を広げるためにも、図書館を利用していきたいと思いました。

この本、読んでみて！

『つめたいよるに』

美術科１年　**三　村　千　秋**

この『つめたいよるに』という本はあの『冷静と情熱のあいだ』やＶ６の岡田准一さん、黒木瞳さんなどが主演した映画『東京タワー』などの作品で有名な江國香織さんの短編集です。どれもすばらしい短編ばかりの短編集ですが、私が特にお薦めしたいのは『デューク』と『草之丞の話』です。『デューク』はある女の人の飼い犬デュークが死ぬ所から始まります。女の人は悲しみます。そんな時ハンサムな男の子と巡り合って……といった感じです。『草之丞の話』は世間知らずで泣き虫で夜中に一人でトイレにも行かれない母とその息子と、正真正銘の侍で正真正銘の幽霊である父の物語です。どちらも美しい文章表現で江國さん独特の不思議な世界が展開されています。さらっとした後味があり、読んだ人を暖かい気持ちにさせてくれます。

何度もいいますがこの本は短編集なので、本が苦手な人にも読みやすいと思います。夜、寝つきが悪い時などに１つ１つ読んでほしい本です。

おすすめの一冊

※取り上げられた本は、附属図書館に所蔵もしくは所蔵予定です。

エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』

一般教育　**高 瀬 圭 子**

ドイツの作家、エーリヒ・ケストナーが書いた『飛ぶ教室』というお話を知っていますか？　ドイツのとある寄宿学校で学ぶ個性あふれる５人の少年と、彼らを見守り、友だちになる大人たちが繰り広げる、言うなれば学園友情ストーリーです。児童文学の名作と言われている作品ですから、子どもの頃に読んだことがある、という人も多いかもしれません。

その物語が、2003年に映画になりました。小説の初版が出たのは今から70年以上も前のことですが、映画では現代のドイツに舞台が置き換えられています。それに伴ってどんなアレンジがされているのか、それが、主人公たちのイメージにぴったりなキャストの演技ともども、映画版の見どころになっています。

少しだけ、ここでご紹介しておきましょうか。例えば、映画では主人公たちの学校があるのは、旧東ドイツのライプツィヒと設定されています。（原作小説ではキルヒベルクという町です。）小説が書かれた時点ではまだ起きていなかった、ドイツの東西分断という歴史を背景に取り入れたことで、物語にひとつの綾が加わることになりました。（でも、ストーリーについて、これ以上詳しいことは書かずにおきますね。）

『飛ぶ教室』が出版された1933年は、あのアドルフ・ヒトラー率いるナチス党がドイツの政権を握った年でした。そのファシズム体制のもとで弾圧を受けながらも、ドイツに踏みとどまって抵抗を続けたのがケストナーという人です。旧東独に存在したような非人間的な体制への批判を秘めた映画版にも、ケストナーの精神は一脈通じているといえるでしょう。

ちょっと固い話になりすぎてしまったかもしれません。ほんとうは、堅苦しいところなど全然ない、すてきなお話なんですよ！　映画で現代っ子のしたたかな元気さを楽しむのも、原作で少年たちのけなげさにしみじみと感動するのも、どちらもおすすめです。両方を比べてみても、きっといろんな発見があるはずです。

（たかせ　けいこ／西洋史）

河北秀也『デザイン原論』（新曜社）

美術科　**鈴 木 慎 一**

“下町のナポレオン”iichikoの駅貼りポスターを一度は皆さんも目にしたことがあると思います。本書の著者はiichikoの販売元である三和酒類のアートディレクターを務めている河北秀也氏が“デザインすることについて”を語った一冊です。

この斬新な一連の駅貼りポスターを初めて目にしたときの私の率直な感想は、“焼酎の広告にしては大変に斬新だ。これは相当優秀な（根回しのうまい）アートディレクターがいるのか、広報宣伝に相当に理解のある会社なのか、どちらかなのだろう”でした。そこでこの本で少し勉強してみるかと手にした訳ですが、読んだのはかれこれ10数年前になります。キャッチコピーにあるように「小説を読む楽しさでデザインがわかってしまう」というのは嘘ではありませんでした。そんな彼がデザインの本質について語ります。

絵がうまくなければ、工作がうまくなければデザインはできないのか。そんなことはない、デザインは、絵や工作と同じものではなく、みんなが幸せに生きていく上で、世の中の仕組みやモノに対して、これはおかしいぞとか、こうしたほうがいいのになあという発想をみんなが利用できる形に（目に見える形に）変換する作業のことなのだと言います。ですから絵画や工作のように好きなように、綺麗に、上手に仕上げれば、傑作というわけにはいかないのだとも。素敵な考えや、ユニークな発想があれば、下手でも傑作なんだよと主張します。

デザインをするという行為は、他の芸術活動と違って個人的な自己表現ではなく、デザインを享受する側がいかに心地よいか、便利になるかといった、変革のメッセージを送り届けることであると言います。デザイナーは建物をデザインし都市をデザインし、諸々のモノを好むと好まざるとにかかわらず作り出して行きます。ある意味押しつけていくわけです。そのためにデザインにとって、デザインをする人間の個性や資質は重要な意味を持ってきます。だからこそ、人間や世の中に対する深い理解や哲学を身につけ、深い個性を持ちたいと説きます。

初版から十数年たつ本書ですが未だに文庫化されず、ハードカバーで売られています。デザインを志す学生達に是非読んでもらいたい、正に“デザイン”の“原論”です。

（すずき　しんいち／ビジュアルデザイン）

心に残る一枚

シェーンベルグ「浄夜」（オリジナル版）
ドメーヌ・ミュージカル・アンサンブル

音楽科　**磯 崎 淳 子**

私がこのレコードと出会ったのは音大に入ったばかりの頃でした。「浄夜」という曲自体はオーケストラ版の方が有名で、当時演奏会等で頻繁にとりあげられていた事もありよく聞いていたのですが、当時作曲科の学生で、入野義朗先生の元で一緒にシェーンベルグの「十二音技法」の原書を読んでいた仲間がある時、「オーケストラ版よりずーっと良いから」と私に貸してくれたのが、このレコードでした。

弦楽六重奏の為に作られたオリジナル版は、19世紀後期ロマン派の終着点の作品といえます。リヒャルト・デーメルの詩になぞられた官能的音楽が、オーケストラ版とは違った陶酔感を引き出しており、音と音との間に流れる「静」なる緊張感が見事な迄の表現となって、その詩のディティールを表現しています。二人の男女が月夜の森を歩きながら、互いの愛を浄化させていくこのロマンティックな詩が、まるで一枚の絵画となって見えてくるようです。

そういえば、ブラームスのピアノソナタ三番の二楽章にも同じような情景の詩がそえられ、音楽の流れも大変似ていることに後年気づき、大変興味をもちました。

当時、「音を出す」ことに明け暮れていた私に音楽がイントネーションの芸術である事、「音のすき間」の緊張感を教えてくれた一枚でした。

美しさの極みを求め続け、求め続けるあまり両方の手から水がこぼれるようにあふれでて崩れていくような後期ロマン派という時代が、この美しい旋律に溺れることなく、凛とした、ストイックな迄の演奏で表現されています。

当時の私には、衝撃的な一枚でした。レコードは何故か友人に返されることはありませんでした。この友人は後年、前衛舞踊家となって活躍し、若くしてベルリンで没した古川あんずさんで、レコードは彼女の遺品となって今も私の手元に置かれています。

（いそざき　あつこ／ピアノ）

私の一枚

マンフレディーニ　クリスマス協奏曲
ギュンター　ケール指揮　マインツ室内合奏団（アルヒーフレコード）

音楽科　**福 田　　隆**

この曲は、私が音大を受験することを決意し、いろいろな音楽に興味を持つようになり、親に頼んで初めてステレオを買ってもらったときに、耳にしてとても感動した曲です。

それは35年ほど前になりますが、当時ＦＭで「バロック音楽の楽しみ」という番組があり、そのテーマ音楽がこの曲でした。何気なく部屋で過ごしているときに、ステレオから流れてきたこの音楽にとても惹かれ、気になっていたのですが曲名が分かりませんでした。しかしある日、テーマ音楽についての説明があり、曲名が分かってすぐにＬＰレコードを買いました。大事にしていたので、擦り切れるほど何度も聞いている訳ではありませんが、他にもトレルリ、コレルリ、ロカテルリの同じクリスマス協奏曲が入っていたにもかかわらず、マンフレディーニの曲だけが頭から離れませんでした。出だしから何とも言えないしなやかさで音楽が流れ出し、「こんなにきれいな曲があるのだ」、と感動したことは今でも鮮烈に覚えています。演奏も飾り気のない、大変素朴で誠実さを感じさせるもので、響きは生成りの木綿のような感じでした。ただ大変残念なことに、東京から九州に引越すときのどさくさに紛れて、見当たらなくなってしまいました。このＬＰだけは、失くした事を今でも後悔しています。

どなたかこのレコード持ってらっしゃいませんか……。

（ふくだ　たかし／打楽器）

本をなるべく読まないで済ますこと

国際文化学科　上 野 正 二

人間にとって最も重要なことがらは文字によっては伝達され得ない、だからなるべく本は読まないようにする、というのが私の読書に対する基本的な考え方です。ただしこの話を続けるには、読者のみなさんの考え方と余りにもギャップが大きすぎて、労大きくして得るところは少ないでしょうから、その手前で標題のような話に留めておくことにします。

学生諸君は教員の研究室を訪ねるとほとんど例外なく、先生は沢山の本を読んでいるんだナア、本の量に圧倒されるようです。例外の人も、自宅にはその何倍もの書棚が並んでいることを想像できたら、そう思わずにはいられないでしょう。でも、他の教員の皆さんはどうなのか知らないが、私に関してはこの感想は当たりません。私は研究室の本も自宅の本もほとんど読んではいないのですから。では私が図書用に使う県税は無駄遣いしていることになるのかというと、これはまたそうではないのです。学生に読書術を伝授するための大事な資料として十分に活用しているつもりです。

斉藤某氏の『読書力』という本によれば、多くの本を読むことが教養を積み人間力を高める決め手であるようですが、無駄ごとは多く書いていながら、どうしてそういうことになるのかという点に関しては、何も書いてはいませんね。そんな主張が手放しでできるはずがないのです。多くの本を読むと草臥れるし、お金もかかる（喜ぶのは物書きと出版社です）。けっきょく大事なのは〈読むべき本〉を〈読むべき仕方で〉、さらにいうならば〈読むべき時に〉、読むことでしょう。困ったことに今日の学校教育では「価値観は多様でありそれでよい」という考えが普及しているので、〈読むべき本〉などと書くとそれだけで反撥を感じる人がほとんどのようです。でも、私に反撥するよりも、「価値観が多様でいいなら学校に行くのもナンセンスではないか」と自問してみることをお勧めしたい。

（うえの　しょうじ／哲学）

ラ ッ キ ー

情報コミュニケーション学科　柴 田 雄 企

読みたいと思う本は自分でお金を出して買った方がいいらしいです。自分で買った本はただ本棚を埋めているだけでも、いつか読まないともったいないなと心にひっかかっているのでいつかきっと読むだろうし、いざ読み始めても、かりた本より真剣に読んでいることが多いような気もします。でも、読みたいと思う本を全部買う持ち合わせは残念ながらないのでした。これは今でももちろんそうですし、学生の頃はもっとそうでした。そんな僕は図書館をよく利用してきました。図書館は暇つぶしに最高です。静かで暑さ、寒さも凌げます。皆さんの中には図書館の本は汚いから嫌だという人もいるかもしれません。確かに汚い本もありますが、芸短の図書館にある本は割ときれいなものが多いのでラッキーです。ただボロボロになっている本ほど実は面白かったり、何かの役に立ったりするのかもしれません。

（しばた　ゆうき／臨床心理学）

試聴室に行こう！
～試聴室おすすめのディスク～

SADAO WATANABE My Dear Life 50th ANNIVERSARY COLLECTION
渡辺貞夫　マイ・ディア・ライフ　50周年記念コレクション

（UCCJ-2011/2：CD）

音楽科　小　川　伊　作

■収録曲

DISC 1

1.タクシー・ブルース〔新録〕／2.カリフォルニア・シャワー／3.モーニング・アイランド／4.ナイス・ショット／5.オレンジ・エキスプレス／6.コール・ミー／7.フィル・アップ・ザ・ナイト／8.スティル・アラウンド／9.ティップ・アウェイ／10.ラウンド・トリップ／11.パストラル／12.エリス／13.メイド・イン・コラソン／14.オンリー・イン・マイ・マインド／15.マイ・ディア・ライフ（1988 Instrumental Version）

DISC 2

1.パッシング・バイ／2.アース・ステップ／3.アイ・タッチ／4.黒い瞳／5.緑の風景／6.クリスマス・ドリーム／7.アイム・ウィズ・ユー／8.アフロジル／9.オン・サニー・デイ／10.リトル・ワルツ・フォー・M／11.アイ・ソート・オブ・ユー／12.テ・ミセヤ／13.マイ・ディア・ライフ（50TH ANNIVERSARY VOCAL VERSION）〔新録〕／14.マイ・ディア・ライフ（2001 INSTRUMENTAL VERSION）〔新録〕

「ジャズはアメリカの生んだ20世紀最大の芸術音楽である」とよくいわれます。ミシシッピー川河口の町ニューオリンズに生まれたジャズは、急速に成長し、またたくまに言語、宗教、国境を超え世界に広まり、それまでの長い歴史を持つクラシック音楽にも、強い影響を与えていきます。日本もそうしたジャズを受け入れた国の一つでした。

クラシック音楽の分野では最近日本人の活躍がきわだっていますが、ジャズの分野でも日本人アーティストの活躍は活発です。今回ご紹介するディスクはそのような日本ジャズ界の大御所的存在であるサックス奏者、渡辺貞夫の音楽生活50周年記念アルバムです。渡辺貞夫は2003年に来県し、地元の小学校、高校、社会人のバンドと競演し、華麗なトーンを聴かしてくれたことは記憶に新しいところです。渡辺貞夫は1933年生まれで、このアルバムの発売は2001年。逆算すると彼の音楽生活は18歳から始まっており、それはちょうど彼が高校を卒業して上京した年に当たります。そしてアルバム発売時には68歳ということになります。

「ナベサダ」の愛称で親しまれている渡辺貞夫ですが、その音楽はいつも明るい幸福感に包まれており、ジャケットなどにいつもみられる彼の屈託のない笑顔のように、年を経るに従い「貫禄」よりは「親しみ」を増しているように思えます。日本人としては二番目にアメリカのバークレー音楽院に留学し（一番目は大分出身のジャズ・ピアニスト秋吉敏子でした）、帰国後はアメリカで学んだジャズ理論の普及につとめ（フリー・ジャズの代表格ともいえる山下洋輔も彼の講義を受けた）、日本のジャズの向上に大きな功績を果たしました。70歳を超える現在も精力的に演奏活動を続けており、その様子は民放ＦＭで毎週聴くことができます（エフエム大分、日曜日深夜０時）。70年代にも渡辺貞夫のライブ録音の放送番組があり（『渡辺貞夫のマイ・ディア・ライフ』）、私も毎週ラジオから流れるナベサダのサックスの音に耳を傾けたものでした。

このディスクはそのナベサダの足跡をたどるべく新録音３曲をまじえて、78年以降の録音から選曲・制作されたものです。そこには彼のテーマ音楽ともいうべき「マイ・ディア・ライフ」の新録音も含まれています。この曲を含めほとんどが渡辺貞夫のオリジナルであるところも、このアルバムの特徴でしょう。ラテン、アフリカの音楽を自家薬籠中のものとしながら、渡辺貞夫のサックスの音はどこか日本的な風合いがあり、彼独自の世界が感じられます。いたるところでちりばめられる装飾音は、まるで光に反射するさざなみのようにきらきらと輝きます。「生涯現役」などと肩肘張った感じではなく、軽やかな息づかいが軽快なリズムに乗って、心地よいですね。プロのミュージシャンとの共演が見事なことはいうまでもありませんが、DISC 2 に収録されている中学生との共演（第４曲　黒い瞳：彼の故郷でもある栃木県で1995年に開催された第10回国民文化祭の演奏）も味わい深いものです。一つ残念なことはナベサダのサックスは、ＣＤではその音色の美しさが十分には味わえないことでしょうか。

（おがわ　いさく／音楽学）

ツッチーコーナー

朝日のようにさわやかに、或いは如何にして読書中の睡魔と闘うか

教務学生課長　土　田　一　彦

たとえば春の木漏れ陽を浴びた公園のベンチで、早く来すぎた僕は煙草を一本吸って、ジーンズのポケットから文庫本を出して読み始める。遠くで草野球の喚声が聞こえる。何頁か読み進んだとき、ふいに後ろから目隠しされ、ジャスミンの香りに包まれる。頬をくすぐる長い髪。

「遅くなってごめんね、待った？」

…すまん。自分で書いときながら悪寒が走った。『マディソン郡の橋』を読んだとき以来のさむけ。

日曜日の昼下がり、パジャマ姿で柿ピーつまみながら畳に仰向けに寝ころんで読書するうち、ついうとうと睡魔に襲われ、白日夢を見てしまった。

読んだ本が悪かった。世界の中心で愛を叫ぶって、ブッシュか君は。迷惑防止条例を知らんのか。

『八つ墓村』と『悪魔の手毬唄』を続けて読んだときは、殺人鬼に間違えられて真っ暗な山道を村人達に追いかけられる悪夢にうなされた。

最近、読書量が増えた。県図書で10冊、コンパルで５冊、うちの図書館で２冊借りて２週間で全部読破してしまう。テレビが壊れたせいだ。僕の体が昔より大人になったからなのか、スイッチを押しても気分次第で映ったり映らなかったりする。不機嫌な妻を見ているようだ。そろそろ替えどきか、無論テレビの方だが。そのうち井戸が映ったり、髪の長い女が抜け出してきたら相当怖い。

閑話休題。読書中のうたた寝で悪夢の次に怖いのは、つい手が滑って、本が顔の上に落ちてくることだ。宮部みゆき『模倣犯』やＳ・キングの本は分厚くて重いので痛そうだ。ハリポタも要注意。

『横尾忠則グラフィック大全』なんか重さ２トンもあって、腕が疲れるので腹這いになって読んだが、居眠りしたはずみに頁の間に挟まれてしまい、レスキュー隊の救助を要請した。嘘だけど。

眠気ざましにおーいコーヒーと呼ぶと、私はそんな名前ではないとか、呼べばコーヒーが歩いて来るのかと言い返されるので、自分で入れる。

それから向かいの保育園のお遊戯や岩に浸み入る蝉の声、洗濯機掃除機ポルターガイスト等の生活音を遮断し、読書に集中するためＢＧＭを低く流す。これはインストゥルメンタルに限る。意味のある歌詞が耳に入ると却って邪魔になるのだ。

先日間違えてポルノなんとかの曲を掛けてしまい、ぼくらが生まれてくるずっとずっと前にはもう鎌倉幕府はいい国つくってたとかいう長いフレーズが耳について離れず、気が散って困った。

最近は読書傾向に合わせて、専ら百円ショップで買ったジャズピアノＣＤをエンドレスで流す。伊坂幸太郎、桐野夏生、宮部みゆき、東野圭吾。ミステリーにはジャズがよく似合う、と太宰治が言った、かな。

つちだ

職員のつぶやき

鼻息を荒くすることのススメ

アタシはそもそも生きていくうえで、本と音楽と映画は自分にとっては欠かせないと考える人間です。自分の心の柱にガンガン響いてくるような本の表現、歌う人の声、映画のワンシーンなどに出くわした時って、やばいなーって思って、鼻息荒くなります、フガフガフンガー!!　となって、いやー、楽しいですね、めちゃくちゃ嬉しくなります。なにかこう、日常生活で起こる、ちょっと嫌なこととか、悲しいこととか、せつないこととかが、一瞬なくなっちゃうような、私の人生において、こんなことと、あんなことと、そんなことはいやでいやでしょうがないけど、でも、まあ、こんな楽しい世界があるからまーいっかーーと、単純に思ってしまう、その、まーいっかーっていう感情はずーっと続くってわけじゃないですけど、ほんのひとときなんですけど、でも確実にそこから自分を解放させてくれるわけで、救ってくれるわけです。で、これからの未来を生きるみなさまにもこの“鼻息荒くなり体験”をたくさん、たくさんしてほしいなーと思います。図書館に来て、少しでも目にとまったり、ビビビッときたりした本や音楽や映画をムシャムシャ味見してみることです。そうすることによって、自分ってここがツボなんやー、鼻息荒くなるんやー、これはあんまり心に響かんなー、と、様々な“思い”がアタマに浮かんでくることが楽しいですし、そのことイコール自分というものがどんな人間なのか、やんわりと自覚したり、気付いたりとかして、なにかこう、生きるための方向性、楽しくなるための手段みたいなものが見えてくるような気がするのですが…。で、これ、好きやなー、いいわーって思うものがわかったら、もうそこをどんどん、どんどん、追求することです。掘り下げることです。うぉー、楽しいぞー!!

アタシは、カウンター越しに貸し出し、返却に来るみなさまの背中を見るのが好きだったりもします。可愛いですね。みんな可愛い。その背中に、学校の授業のこと、アルバイト、友達、恋愛、いろんなものを結構真剣に背負っているように見えて、カウンターから、背中に向かっていつもがんばれーって思います。がんばれーって応援しつつ、鼻息荒くなる体験の手助けもしたいなぁと考えています。図書館に来てね☆

（附属図書館／河野　貴子）

本学教員執筆書籍等の紹介

＊2005年４月以降

『臨床心理精神医学のためのＳＰＳＳによる統計処理』　東京図書
加藤千恵子・石村貞夫著
『正義の他者』実践哲学論集　法政大学出版局
アクセル・ホネット著　加藤泰史／日暮雅夫／水上英徳、他訳

著作権法　ミニ知識

＜資料の複写（コピー）について＞

著作権法　第31条に定める「図書館などにおける複製」

“一定の要件を遵守することを条件に、権利者（書いた人・訳した人）の承諾を得ることなく、利用者の求めに応じて複写サービスができる”

一定の要件とは……

◆営利を目的としないこと（学習・研究のため）
◆司書がいる図書館であること
◆著作物の一部分（半分以下）であること（例：100ｐの本の場合50ｐまで）
　定期刊行物については、発行後相当期間を経過したもの。雑誌の新刊は、複写不可
◆一人につき、一部であること。

・著作権の消滅は、原則として、著作者の没後50年です。
・著作権の切れた著作物については、それ以後、自由に出版したり、インターネットで公開したりすることができます。（例：インターネットの青空文庫）

大分県立芸術文化短期大学附属図書館
図書館だより　No. 5

発　行　日　2005年（平成17年）10月１日発行
編集・発行　図書館委員会
大分県立芸術文化短期大学附属図書館
〒870-0833　大分市上野丘東１番11号
電話：(097) 545－4235
ウェブサイト：http:/www.oita-pjc.ac.jp/library/ （図書館）
http:/www.oita-pjc.ac.jp/~tsdayori/（図書館だより）
イラスト：美術科副手　中谷　夏海